



じんけんひろば 人権の広場

ひとりひとりを たいせつに



こんげつ はなし 今月のお話

12月1日は『世界エイズデー』です。

世界エイズデーは、エイズという病気について正しく理解し、感染者に対する偏見や差別をなくすために、世界保健機関(WHO)によって定められた記念日です。

エイズとは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)の感染によって細菌やウイルスなどの病原体から体を守る働きが弱くなり、健康な時にはかからないような感染症などにかかってしまう病気です。HIVは非常に感染力の弱いウイルスで、ふつうの生活では感染しません。

しかしこれまで、正しい知識や理解が不十分なため、HIV感染者やエイズ患者の方々、その家族がへん見によるいやがらせを受けたり、就職を拒否されたり、入学や入園を拒否されるなど、様々な人権侵害を受けてきました。

正しい知識を身に付け、共に生きる社会づくりを考えましょう。



よ 読んでみよう

「ぼくのおじさんは、ハンセン病」
船橋秀彦・平沢保治 作
「平沢保治」さんは、かつて「らい」と呼ばれたハンセン病の回復者です。平沢さんの物語はハンセン病と呼ばれた社会から隔離されてきた一人の人間の物語です。
(同書「はじめに」より)



レッドリボンのメッセージ



レッドリボンは、あなたがエイズに関してへん見をもっていない、エイズと共に生きる人を理解し、支援していくというメッセージです。

みんななかよく
じぶんもあいても
たいせつに



じょせい だんせい こ としよ
女性も男性も 子どももお年寄りも
はだの色のちがいがあってもあるいは
障害があってもみんな同じ。だって
みんな同じかけがえのないひとりの人間。